

今月の ひとこと

2003年1月に創刊された「インベストラライフ」は幾多の変遷を経て今日204号を発刊できるまで続けてきました。これもご愛読いただいているみなさまのおかげとありがとうございます。2020年1月号より本誌はFIWA通信「インベストラライフ」と衣替えをします。と言っても中身はあまり変わりません。引き続き、企業広告を取らない、短期相場予測や銘柄の推奨はしない、寄稿は個人としての本音を書くという基本路線の変更はありません。

しかし、新機軸も入れていきます。今回、2019年11月に開催された「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA」の設立記念講演会での私のご挨拶と基調講演を初めて動画でご提供することにしました。これからも動画形式と文字形式の両方でみなさまに役立つ情報を提供していきたいと思っています。これからもご愛顧のほど、よろしく願いいたします。

+++++

2月2日(日) 13:30～16:30

大阪 NPO法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA」設立記念講演会 IN 大阪

■会場: 男女共同参画・青少年センター

詳細は下記のI-OWA便りをご覧ください。

+++++

FACEBOOK上で約3600人のクラブ・インベストラライフの仲間が参加し、活発な議論をしています。投資未経験者の方の質問や疑問も大歓迎です。FACEBOOKに登録している方、ぜひ、ご参加ください。(FACEBOOKに継続的に投稿を行っている方に限定させていただきます)

[今月号の記事をすべてダウンロードする](#)

独立アドバイザーのチャレンジ・シリーズ 尾藤 峰男氏

独立アドバイザーのチャレンジ・シリーズ 尾藤 峰男氏



尾藤: 天路歷程という話があるんです。これの意味は、目の前には狭くて細い道がまっすぐに続いている。でも横を見ると間口が広がっている脇道が沢山あるんだけど、やっぱりまっすぐに進まないと、行きたいところには辿り着けないってことなんです。広がっている道は、最初入りやすいんだけど、結局は脇道なんです。最終のところには行けないんですね。逆に真っ直ぐな道は狭いんだけど、持続していけば目的地に着くんです。岡本: ということはつまり、最終の目的地がはっきりしていないまま、自分にとって目先の都合の良い仕事をしてしまう。とりあえず生活をどうしようかっていう考えだから、脇道に行っちゃうってことなんですね。

[読んでみる](#)

I-OWAマンスリー・セミナー講演より 天気予報と投資の類似性、カオス現象について

講演: 森 和夫氏 レポーター: 赤堀 薫里



気象は簡単というと情報業界そのものです。世界中にリアルタイムで地震や中継はすぐに送らないといけない。そういう手順を世界中で毎日やっているというのが情報業界です。気象は予報というものがあります。つまり未来を当てに行っている。人間の脳みそは災害も含めて予測不可能なことについていけないようです。予測不可能な現象、気象と株。カオスというテーマでは一緒ですが、実は違うところもある。これを投資にどういかしていくのか。

[読んでみる](#)

I-OWAマンスリー・セミナー講演より ウォール街の歴史 (その1)

クラブ・インベストラライフとは?

人生を通じての長期投資は孤独な長旅です。この長旅に耐え、大きな喜びを得るには、資産運用を行うための基礎となる知識と孤独な旅を支えあう仲間が必要です。「将来の自分はいまの自分が支える」ほかない時代、クラブ・インベストラライフの活動は、豊かで幸せな人生のための投資を目指しています。

毎月、ネット上で会報誌を公開するほか、FACEBOOKやTwitter上で議論の場を提供し、各地でのセミナーを開催しています。

まったく投資の経験のない方も多数、参加しておられます。大手金融機関から完全に独立しているので、特定の商品をお勧めすることも販売すること一切ありません。

<FACEBOOK、TWITTERへの 投稿の際のお願い>

1. 個別商品の販売・推奨、あるいはそれに類する投稿はご遠慮ください
2. 発言はあくまで個人としてのものとしてください
3. 企業広告はご遠慮ください

I-O ウェルス・アドバイザーズの メール・マガジン

メルマガへのご登録は下記のメールアドレス宛に、空メールを送信下さい。購読は無料です。

mag@i-owa.com

毎月15日配信 無料

Facebook

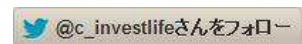
Facebook上のグループ、クラブインベストラライフ
<http://www.facebook.com/groups/investlife/>

Facebookへの登録が必要です。リクエストボタンを押して入会申し込みをしてください。

[Facebookへはこちらをクリック](#)

Twitter上のグループ
クラブインベストラライフ
http://twitter.com/c_investlife

Twitterへの登録が必要です

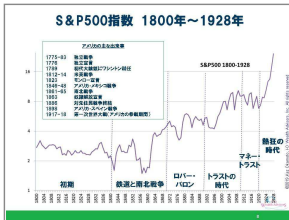


バックナンバー | 一覧

- 2019年11月28日発行 Vol.204
- 2019年11月03日発行 Vol.203

講演：岡本 和久 レポーター：赤堀 薫里

- [2019年10月14日発行 Vol.202](#)
- [2019年09月16日発行 Vol.201](#)
- [2019年08月07日発行 Vol.200](#)
- [2019年07月14日発行 Vol.199](#)
- [2019年06月05日発行 Vol.198](#)



3回に分けてウォール街の歴史をやっていますが、今日はその第1回目です。現在の資本市場の中心はやはり何と言っても米国です。証券制度や投資手法も米国が中心に進んできています。英国やオランダよりは少し歴史が短いですが、米国市場は長い歴史を持ちデータも豊富である、ということでウォール街の歴史についてお話をします。第一回は取引所の成立から咆哮の20年代までを解説します。

[読んでみる](#)

知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸氏



★県名と県庁所在地名（の違い） ★五重塔は1階建て？ ★表彰状にはなぜ句読点がないのか ★赤玉ポートワイン伝説のポスター（とご本人） ★カーディガン（の由来）

[読んでみる](#)

動画コーナー「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA」設立記念講演会でのスピーチ

講演：岡本和久



2019年11月22日に開催されたNPO法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA」の設立記念講演・懇親会での岡本和久のご挨拶と基調講演のスピーチを動画でお届けします。協会の目指すビジョンに向かっていくための車の両輪となる二つのミッションなどについてお話をします。

[岡本和久のご挨拶と基調講演（動画）](#)

<https://youtu.be/QMnzxKmPY8cl>

インベストライフ・アーカイブより 「市井に生きる本格長期投資家」（2004.10）

市井に生きる本格長期投資家、猪鼻福松さん(89歳)のお話です。株式投資で得た資金、総額1億円で社会貢献された元警察官の方です。

[読んでみる](#)

参考データ・コーナー

基本ポートフォリオのパフォーマンス

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

基本ポートフォリオのパフォーマンス 11月は4資産成長型が+1.56%、2資産成長型が+1.97%のパフォーマンスでした。世界各地のパフォーマンスは <https://www.ibotson.co.jp/market/> でご覧いただけます。

[読んでみる](#)

投信データ・ウォッチ

データ提供：イボットソン・アソシエイツ・ジャパン/投信まとなび

今回は直販ファンドの運用状況をリストアップしていただきました。さわかみファンド、セゾン・バンガード・グローバルバランスファンド、ひふみ投信、セゾン資産形成の達人ファンド、結い2101など純資産額で上位を占めました。

[読んでみる](#)

岡本和久のI-OWA日記

★1994年Carmelでの写真ができた！ ★京都南座で顔見世興行を観劇 ★伊丹有岡小学校創立五十周年記念式典で講演 ★中島晴美先生門下生のギター発表会 ★FIWA設立記念講演・懇親会 ★第170回 I-OWAマンスリー・セミナー開催

[詳細はこちらをご覧ください。](#)

セミナー案内

2020年1月19日（日）12:30～16:30 東京

I-OWAマンスリー・セミナー（172回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：12：30～13：30：「FIWA鼎談（仮）」（原田 武嗣氏、岩城 みずほ氏、岡本 和久）

13：40～14：40：「2020年の経済・金融市場を探る（仮題）」（ブーケドフルレット代表、馬淵 治好氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

2月2日（日）13：30～16：30

大阪 NPO法人「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA」設立記念講演会 IN 大阪

■会場：男女共同参画・青少年センター（大阪府中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター5F）

■プログラム：

13:30：開会の挨拶

13:35：なぜ、いま、本当のアドバイザーが求められるのか 岡本 和久（FIWA協会 代表理事、理事長）

14:15：FIWA協会の倫理規範と職業行為基準 原田 武嗣（FIWA協会 代表理事、副理事長）

15:00：「顧客本位」のアドバイザーの必要性和FIWA協会設立について 岩城 みずほ（FIWA協会 代表理事、副理事長）

15:45： パネル・ディスカッションと質疑応答

16:25： 閉会のご挨拶

■参加費：3000円 お申込みをいただいた後、こくちーずよりお送りする払い込み先にお振込みください。お振込みをもってご予約が確定されます。懇親会もご参加の方は合計の参加費7000円をお振込みください。

■定員：50名、先着順

■お申込先：<https://kokucheese.com/event/index/584714/>

■懇親会：17：00～19：00 カフェレストラン凜

（大阪府中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F）

懇親会費：4000円、定員：20名

2月16日（日）12:30～16:30 東京

I-OWAマンスリー・セミナー（173回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：12：30～13：30：「投資教育の六つの柱」（岡本 和久）

13：40～14：40：「戦前・戦時期の金融市場 1940年代化する国債・株式マーケット（仮）」（東京海上アセットマネジメント株式会社 執行役員運用本部長、平山 賢一氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

3月15日（日）12:30～16:30 東京

I-OWAマンスリー・セミナー（174回）

■会場：東京都渋谷区広尾1-8-6-7F（当社オフィス） <http://www.i-owa.com/company/access.html>

■プログラム

12：30～13：12：30～13：30：「資産運用に役立つ投資理論」（岡本 和久）

13：40～14：40：「株価指数研究所の研究成果中間報告」（明治大学商学部教授 三和 裕美子氏）

14：45～15：30：フリー・ディスカッション

15：30～16：30：懇談会

■スポット受講料：教室での受講は10000円＋税 予約必須、動画での受講は5000円＋税 お申込み、お問合せ： info@i-owa.com

[詳細はこちらをご覧ください。](#)



独立アドバイザーのチャレンジ・シリーズ 尾藤 峰男氏

対談：尾藤 峰男 氏、岡本 和久

レポーター：佐藤 安彦

尾藤 峰男氏プロフィール

1978年3月 早稲田大学法学部卒業。日興証券に1999年3月まで21年在籍、投資アドバイス・債券発行・事業法人営業など主要証券業務に携わり、英国、カナダ、オーストラリア(現地法人社長)の3カ国に勤務。2000年7月 ぴとうファイナンシャルサービス株式会社設立、現在に至る。

金融機関から完全に独立した資産運用アドバイザーとして、ライフプランニング、個人の金融資産や退職金の資産運用アドバイスを行っている。CFP 認定者、1級FP技能士のほか、米国発のグローバル資格であるCFA協会認定証券アナリスト、日本証券アナリスト協会検定会員の資格を持つ。グローバルな投資理論や外国株投資、国際分散投資に精通する。日本経済新聞、日経マネー、東洋経済などへ執筆・コメント多数。テレビ東京、日経CNBCなどに数多く出演。著書に「いまこそ始めよう 外国株投資入門」(2010年刊)、「バフェットの非常識な株主総会」(2017年刊)。投資助言・代理業 関東財務局長(金商)905号)

岡本：尾藤さんは、どうして長年勤めた証券会社を辞めて独立をしようと思ったのか、そこから教えていただけますか。

尾藤：証券会社に21年いまして、営業もしていたのですが、やはりお客様のためにやっているという感覚が無かったのが大きかったです。会社から「これを売ってこい」みたいなのがありましたからね。



岡本：なるほど。でも、かなりの決意がいりましたよね。生活のこともあるし。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

尾藤: その時は、長銀が倒産したり、山一証券が廃業したりして金融業界が不安定な時代でした。日興証券も初めて希望退職を募ったタイミングで、1998 年の秋にそれに応募しました。希望退職なので割増退職金も出るし、金融業界自体もあまり雰囲気良くなく、そこからの自分の仕事人生を考えたとき、当時 44 歳、日興証券に 21 年勤めていて折り返し地点だったので、これからは自分でやりがいのある仕事、世の中の役に立つようなことをできればいいなど考えて、辞めることにしました。

岡本: 最初はかなり苦労があったのではないですか。

尾藤: 苦労というか……。まあ、それまで証券会社の社員だっただけで、自分には裏付けがないんですよ。資格もないし、資産運用をしていたわけでもないし。ただ、そうは言っても、お客様の役に立てることをやりたいと思いましたので、それを、どうやるかを考えました。

岡本: 尾藤さんは、CFA、CMA、CFP を全部一発で合格しているんですけど、これは独立してから取ったのですか。

尾藤: そうです。全部独立してから取りました。会社は 1999 年 3 月に辞めたのですが、その 1~2 か月前は、会社に行かなくてもよい期間があって、その時くらいから、CFP を取ろうと決めて、その年の 6 月の試験に向けて勉強をしました。CFP はご存知の通り 6 科目あるので、一挙に勉強しました。国会図書館の中には、研究室という部屋があって、そこで大きな机を割り当てられて、一日中勉強できるんですよ。そこで朝から晩まで毎日勉強をしていました。

岡本: CFP の次は何を取りましたか？

尾藤: 証券アナリスト、CMA です。これは翌年だったと思います。

岡本: 同じスタイルで勉強したのですね。

尾藤: この時は会社を辞めてからでしたので、自分の仕事をしつつです。とは言っても、お客様ゼロから始めたので、親戚や、日興証券の知り合いに紹介してもらったりして、まだ、ほんの 2~3 人だったので、実際にはいくらでも勉強する時間がありました。1999 年に 1 次試験を取って、翌年 2 次試験を取りました。次は CFA ですが、2003 年にレベル 1 を取って、2004 年にレベル 2、2005 年にレベル 3 まで取れました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

岡本:完全制覇ですね。これは本当にすごいです。全部一発ですものね。それで、独立するときに、独立したアドバイザーではなくて、証券仲介業に入るとか、保険代理店をやってみるとか、こういう選択肢は考えなかったのですか。

尾藤:考えませんでした。そういうのがあるというのも意識していませんでした。辞めたきっかけが本当に役に立っているのかというところでしたから。

岡本:そこから始まっているから、会社の看板を背負った営業という仕事はできないということだった。

尾藤:大事だと思ったのは、お客様にとって一番分かりやすく、お客様が納得できて、何より、お客様に果実がいくような仕組みですよね。

岡本:いま、尾藤さんの収入は、100%お客様からのフィーですか。

尾藤:取材協力費や講演の収入もあるので 99%ですね。

岡本:すごいですね。お客様のたけになりたいという強い意識が根底にあるから、ものすごいチャレンジだとしても、あまり深刻に考えずにススッと行けるんでしょうね。そうすると、今の IFA や営業をメインにしている FP が多くいる現状を、どんな風に見ていますか。

尾藤:私は、メルマガやニュースレターで散々言っているのですが、要するにお客様の役に立つようになっていないんですよ、仕組みとして。だからやるべきではないのです。

岡本:それは、根本的に利益相反があるということですか。

尾藤:そうです。やるべきでないことをやっているってことです。だから、そういうのは、やめるべきなんです、無くすべきなんです。

岡本:無くすというのは、金融仲介業を無くすってことですか。

尾藤:そうです。

岡本:私は証券の営業というのは、あってもよいと思っているんです。外部に仲介する人がいてもそれはそれで悪いことではないと思います。ただ、「本当にお客のニーズに合った商品を提供する適合性基準を満たした営業活動をしてください」ってことだと思っています。自社にニーズに合った商品がなければお断りするだけの姿勢が必要です。魚屋さんに肉を買いに



長期投資仲間通信「インベストラيف」

来た人がいたらお断りするでしょう。しかし、現在の営業スタイルだと多くの場合、無理やり魚を買わせている。「似たような味ですから・・・」とか言って(笑)。

尾藤:なるほど。

岡本:何らかの形で売る人は必要なんですけど、お客さんのニーズに合っていないけど、手数料が高く儲かるから売ってしまおう、組織としてやらないといけないからやっている。そしてそれをアドバイザーと名乗ってやっているところに大きな問題があると思っています。アドバイザーは独立した業務として、きちんと区分けをしたいと思っています。



尾藤:ただね。やっぱりそういう仕組みでやっていると、コストとか人件費とかそういうのが掛かりますよね。そうすると、どうやって収益を上げようって話に進んでいっちゃうのかなと。そうすると結局は手数料が高い方に行っちゃうんですよ。

岡本:尾藤さんがそっちにいかずに生活が成り立っているのはなぜなのでしょう。営業している人の中にも、「そんなことやっていたら生活ができない」って言う人も多いでしょう。この差はなんなのでしょう。努力が足りないってことですか。安易に走っているってことですか。

尾藤:まあ、そういうことです。ちょっと難しい話になりますが、天路歷程という話があるんです。これの意味は、目の前には狭くて細い道がまっすぐに続いている。でも横を見ると間口が広がっている脇道が沢山ある。だけど、やっぱりまっすぐに進まないと、行きたいところには辿り着けないってことなんですね。広がっている道は、最初入りやすいんだけど、結局は脇道なんです。最終のところには行けないんです。逆に真っ直ぐな道は狭いんだけど、持続していけば目的地に着くんですよ。

岡本:ということはつまり、最終の目的地がはっきりしていないまま、自分にとって目先の都合のよい仕事をしてしまう。とりあえず生活をどうしようかっていう考えだから、脇道に行っちゃうってことなんですね。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

尾藤: そうです。先日、友達と居酒屋で飲んでいた時にたまたま隣の席にきたグループが、IFA(インデペンデント・ファイナンシャル・アドバイザー)の人たちだったみたいで、「もっと稼がないと…」と話している声が聞こえてきたんです。

岡本: IFA って、インデペンデントと名乗っているけど、名前がミスリーディングですよね。法人としては独立しているけれど、経済的・業務的に独立していないところが多い。

尾藤: はい。そういうことですね。

岡本: これを修正していくにはどうしたらよいでしょうか。

尾藤: IFA を無くす必要がありますね。イギリス、オーストラリア、オランダの 3 か国では、法律でコミッションを取ることができなくなりました。

岡本: 英国のリテール・ディストリビューション・リフォームなどですね。成立は 2012 年だったと思います。

尾藤: そうですね。だから日本は甘いんだと思います。金融庁も自分たちが IFA を認めた部分もあるから、いまさらそれを是正して規制するわけにいかないのでしょうね。どっちが重要だということよりも、違うことを考えてしまうのだと思います。

岡本: それは、とりあえず目先の問題に囚われているからでしょう。真っ直ぐな細い道ではなく、脇道に入っている感じがしますね。

尾藤: そうですね。私はそういう風なことはやっていないので、仕事に対して、十分なやりがいを感じています。お客様が良くなっていること自体が、私の仕事の果実だと感じています。自分が手数料をいくら稼いだかではありません。それはお客様のリターンとつながりませんからね。だから、結局はお客様がもうかっても手数料が入らないなんてことはありますよ。でもそういうものなのだと思います。

岡本: 尾藤さんがされていることや、私たちが FIWA(みんなのお金のアドバイザー協会)で目指しているものって、今月、来月の話ではない。1年後でもなくて、5年後でも短いかもしれない。多分、10 年、20 年という時間を掛けてどうやって豊かさを実現するか、そういう部分があるわけです。そうすると、その間、お客様がずっとついてきてくれるかという大きなチャレンジの部分があると思います。これについてどういう風に解決をしていますか。相場が下がれば動揺するお客様もいますよね。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

尾藤:私は自分の仕事は真っ直ぐな細い道を歩いていると思っています。私が自分で仕事を始めたのは、2000年7月でした。2000年から2010年って日経平均は下がったんです。NYダウも横ばいでした。苦しかったですね。

岡本:その間には、リーマンショックや日本の金融危機もありました。

尾藤:はい。だから、この10年の間は、私の事業としては利益なんて上がらなかったですよ。

岡本:そんな相場だと、お客さんも動揺したと思いますが、それはどうになりましたか。

尾藤:私が初めてのモデルだったので、比較する相手も真似する相手もいませんでした。リーマンショックが起きた後とかでは、プレゼンの仕方など、お客様とのコミュニケーションをどうやったらいいかと思っていろいろ考えました。

岡本:なるほどね。つまり、相談者というか、一般生活者であるお客さんが尾藤さんに勧められてやっていることに対して、どれくらいそれが正しいことを理解しているかがカギでしょう。その信念というか、大丈夫なんだという確信を持ち続けられるかどうか、長期で成功するかどうかの分かれ道なんだと思います。これは年金の運用などでも同じで、どんな戦略も、上手いかないときもあれば上手くいくときもある。要はその戦略の中身をしっかり理解して、それを続けるという信念があるかどうか、成功・失敗の分かれ道ですよ。続けたら上手くいくんですけどね、短期で考えると、その良さは出ないときもあります。グローバルな株式ポートフォリオが良いと言っても、ある一時期だけを切り取ってみれば日本株式の方が良いという時もあります。だけど、長期で全体を見ればそれは変わってくるんです。その辺の教育が大事なんだと思います。

尾藤:その通りだと思います。大事なのは、運用のパフォーマンスよりも、如何にお客様を導いていくか、ということですね。

岡本:それは信念の共有ということですか。

尾藤:そうですね。ですから、そういう意味で、ファイナンシャルアドバイザーは、いつもお客様のそばにいて導いていく、あるいは、支える。あるいは、どういう気持ちを持って進めばよいのかを伝える役目を担うべきだと思います。

岡本:いま、「みんなのお金のアドバイザー協会～FIWA」を立ち上げたところですけど、これについてどう思っていますか。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

尾藤: 結構なことだと思います。フィー・オンリーでやっていける人を多くしていけるようにノウハウの支援をするようなことをしていただいて、そういうフィールドでやっていく、やってみようかという人を増やしていくのが役割なんだと思います。やってみたいけど、どうしたらよいか分からない人って多いんです。

岡本: 勧められるまま、よくわからないで「IFA になっちゃった」という人はたくさんいます。そして、今の営業の仕方に、「なんか違うな」って思っている人も多いんです。何となく、良心を痛めながらも、生活のためにやっている人がたくさんいると思います。

尾藤: その葛藤で仕事をしているよりも、なるべく早く方向転換をした方がいいです。そうすれば、細い道だけど、まっすぐに進んでいけますよ。ただ、すぐには上手くいかないと思います。10 年くらい掛かると思います。だけど、それを間違いない道だと考えれば、自分で鍛錬したり、勉強したり、人格を高めたり、お客様に話せるだけの内容を自分の中で吸収したりして、自己研鑽をしなくてははいけない。でもそういう風になるんです。

岡本: そうですね。手数料をたくさん取る方法を勉強するんじゃなくて、正々堂々と歩いて行けるように、勉強も細い道だけどちゃんとしなさいということですね。

尾藤: そうです。結局それが自分の人生につながるのですからね。仕事として 20 年、30 年とやるわけですからね。長い間やるに値する仕事をやるべきだと思います。自分の人生は一回限りですからね。

岡本: 今日はありがとうございました。大変良い話を聞かせていただきました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より 天気予報と投資の類似性、カオス現象について

講演：森 和夫氏

レポーター：赤堀 薫里

気象は簡単に言うと情報業界そのものです。世界中にリアルタイムで地震や中継をすぐに送らないといけない。そういう手順を世界中で毎日やっているというのが情報業界です。

気象は予報というものがあります。つまり未来を当てに行っている。人間の脳みそは災害も含めて予測不可能な事についていけないようです。予測不可能な現象、気象と株。カオスというテーマでは一緒ですが、実は違うところもある。それでは気象の予測を、投資にどう生かしていくのか。

似ている点は、第一に平均回帰という点です。天気は、今年、異常気象で暑くても、冬は寒くなりますし、毎年寒い、暑いと言っているても大体平均的なところに落ち着く。待っていれば大体戻ります。金融も、株価というのは企業の価値。どれくらい企業が一株当たり利益を出しているのかというベースに基づいて動くので、長い目で見ると企業価値に収斂してきます。



二つ目は増える要因が単純だということです。天気ですと、ローカルで観るとごちゃごちゃとなっていますが、地球全体で観ると太陽からの熱量によって変わっているだけです。入ってくる熱と出て行く熱も大体釣り合っているので、太陽活動が活発の時は、入ってくる熱が多く、それだけ地球全体が暑くなってくるという意味です。それに対して投資の方も似ています。基本的に資本主義は、成長するベースをもとに成り立っている主義です。基本的に世の中の富は増える方向ですよ。単純に資本主義に身を任せていけば、細かいところはあるけれど全体的には成長していく。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

確率要件があるということで、標準偏差。ばらつき度合いが一緒です。1 標準偏差、1 シグマのことをリスクと呼ぶのは気象も一緒です。ただ、平均に戻る理由が違います。これは力学的に、冷たければ暖かい空気が入ってくるのでそれが混ざり、人間が何もしなくても平均に戻っていきます。金融の場合は、逆に高いと株を買い、売られていると更に売るといった状況がおきます。気象の場合、是正される、負のフィードバックといいます。投資は正のフィードバックで更に高くする。簡単に言うと人間が入っているということです。

複雑さは、天気は計算可能ですが、経済活動は変数が多すぎて計算すら難しい。人間の活動としては、暑い寒い感覚的にわかるので、「今日はジメジメしていましたよね」という話ができます。株の価格は、何がなくて安いのか、実感しにくい。更に自分の株で損をすると、5 倍位の感覚で嫌という感情的な部分も組み込まれてしまう。そういうところで狂う状況です。ここを上手く、似ている点、違う点を利用できればよいのです。

意外とバブルは起きています。統計計算をして、標準偏差、正規分布を仮定していくと、リーマンショックは 100 年に 1 回しか起こらないと言われていた。IT バブルもそうでしたが、気づいてみると、意外と起きています。これはなぜなのか。普通の天気だったら、異常気象はそれほど頻繁に起きないで平均に落ち着きます。しかし、こと経済活動になると極端なことが起きています。ここは上手く利用しないとだめです。こういうことが起きると逆に売ってしまう人がいるというのが笑えるところです。

講演では、はじめに気象の基礎知識と、天気図の見方、気象予報の手順について解説。また投資と日本人と心のお話、投資(人生)の「心技体の一致」の提言をいただきました。

「天気」と「投資・お金」、「人生」は、不確実性があるという意味で非常によく似ています。人間は直感的に、直線的にしか物事を理解できないので、なかなかカオス現象を理解するのは難しいでしょう。ただ普遍的な特徴としては、平均回帰や成長していくものに資金を投資しておけば気楽です。同時に人生におけるお金の位置づけを早めに確立することも非常に重要です。その上で、「日本人の特徴である天気災害、それ自体を楽しむ心を利用して、諦観や諦めの心、穏やかな心で乗り超えて満たすべき心、自分の人生を定めていった方がいいのではないのでしょうか」と結ばれました。



長期投資仲間通信「インベストラ이프」

I-OWA マンスリー・セミナー座談会より

森 和夫氏、
セミナー参加のみなさま

岡本 | 気象庁の役割はどういうものなのでしょう？今、いろいろ予想する所ができていますよね。でも大体気象庁の発表をそのまま、みたいな感じがします。

森 | 基本は国です。僕らは民間。気象協会、ウェザニュースさんなど 60 社くらいあります。基本的なデータ集め、設備投資、アメダスなどは国の仕事としてやっています。モデルの予測計算は国の仕事です。例えば電力会社さんは、気温が 1 度違うと燃料費が何億も違ってしまいます。そこで電力会社向けのアドバイスをする。また、電鉄会社のお客様に「明日は運行を止めた方がよいですよ」といって、対価を頂くのが僕らの仕事です。

岡本 | それぞれの電鉄会社と契約しているかたちになりますか？そのための営業もいりますよね。

森 | 一時やっていました。

岡本 | でも予報はそんなに変わらないですよね？

森 | 予報は 2 つあります。あまねくテレビ・ラジオに出すものはあまり変らない。契約しているお客様向けには全然違う予報を出しています。



岡本 | もっと特化された特異の分野についてですね。

森 | 会社間の色が出ます。一般向けでも微妙に違ったりしていますが、おおむね似ています。

参加者 | 最後、予報士さんが味付けするところで違うのですね。

森 | そうです。「明日の降り始めは夕方から」とか。夕方は帰宅があるので加味したりしますね。

参加者 | 企業向けに特化した予報とは、どういうものですか。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

森 | 先ほども触れましたが、例えば電力さん、鉄道等のインフラ企業さん。高速道路の場合、御殿場で通行止めになると、一気に数千億円の損害になってしまいます。事故が起こってもそうです。そのため「早めに雪かきの車を16時から出して何往復しましょう」というようなアドバイスをしています。

つい最近の事例で、自治体さんには、避難勧告をある一定量、基準のもと、出します。ただ基準だけではない部分もあります。自治体さんと契約していて、「3時間後どう？」と連絡が来ると、「危ないです。50mmになります」というように基準値に達しそうかどうかのアドバイスをします。

参加者 | 地上の状態も把握していないといけないのですよね。

森 | はい。リアルタイムで見えています。

岡本 | ここは洪水が起きやすい地形だとかという要素も入ってくるわけですよね。

森 | そうです。この頃わかりづらいのは内水氾濫。前回みたいに堤防が切れたり、堤防を越水するというのならないのですが、内水氾濫は、低地にどんどん水が溜ってきてあふれ出してしまいます。

参加者 | それはなぜですか。

森 | 下水とかが低いところだとそこに溜ってしまう。

岡本 | タワーマンションなんかがね。全体の流している水の量が、大きいビルであればあるほどそうなっちゃいますよね。

森 | そうですね。下水道局のお客様や自治体とマンツーマンなので、常にお話を聞きに行ったりしています。困り事とか「こういう時にアドバイスが欲しい」ということのヒアリングは結構しています。

岡本 | 大変ですね。

参加者 | データ企業としてはお宝データを持っている。

岡本 | 例えば、個別銘柄の株価は非常に変動が大きいので、分散をすすめています。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

それをさらにグローバルな規模まで広げる分散投資をするということは、基本的に価値、平均回帰というよりは価値回帰なんですよ。

短期的にみれば変動が大きいけれど、長期的にみると価値の方に収斂していきます。

気象の場合にもとりあえず傘を持って行くかという短期になってしまいますが、もう少し長い視野で10年20年あるいは100年。そして地球全体というものを見た時に、気象がどう変わっていくのかという、そういう分析はないですか。

森 | 国際的な機関のTCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)から、「長期の気候変動による自分の事業に対するインパクト、リスクをきちんと財務諸表に入れてください」という勧告が出ています。それに対して、例えばカゴメさん等の会社の経営陣は、30年後、自分の会社が存続できるのかというレベルで、僕らにも長い計算を基に、長野では獲れなくなるから、北の方でなんとかするか、そんな話になっています。

岡本 | やはりビジネスが変わってくるのでしょうか。

森 | 温暖化の方に進んでいるのは確かなようです。しかし、本当に温暖化なのかどうかは、長い目でみるとわからないそうです。

岡本 | 最近の傾向として気象が非常に不安定ですよ。どういうところに原因があるのでしょうか

森 | 原因は明らかで、温室効果ガスが上空でできています。メタンや二酸化炭素とか。

岡本 | でもあれは関係ないという人もいますね

森 | この話は角度を変えるとすごく面白い話です。30年予測と言いましたが、コンピューターで30年くらい計算しますと、結構ばらつきます。まともに当たるのは7日10日くらいまで。その先のデータは、信頼できる予測がないということです。つまり株価予想と一緒に、何が正しいかわからないことを言っているというのと、温暖化の話も同じです。もっともらしく今までこうだから次もこうだろうと。過去がこうなっているからこうじゃないの？という主張も正しいですし、バックミラーを見て運転しているようなものですので、気象もそこまで先に行くとか答えはないです。

参加者 | ベンジャミン・グレアムの The Intelligent Investor(賢明なる投資家)が出版されたのは、1949年です。今から70年前の本です。私は40年ほど前に職業に入りました。しかし、そんなバリュー投資なんて発想はあまりなかったですよ。スペキュレーションです。石油が出たとかね。今だって本当のバリュー投資はあまりないと思いますけど、バリューがないと投



長期投資仲間通信「インベストラيف」

資はいらないと思うのです。本質的価値があって、そこからということですね。それがずっとなかったってことですよね。回帰するべき価値が分からないままだった。

I

岡本 | だからむしろアメリカの 20 年代が続いているんですよ。今は、そこまで極端ではないですけどね。バリューもあり、グロースもありますが、私は投資はバリューだと思います。ただ、今のバリューと比較するのか、将来のバリューと比較するのかということで、いわゆるバリュー投資家とグロース投資家の違いはそこにあると思います。いずれにしても、今の株価とバリューを比較して判断するのは当然だと思います。日本の中では材料株とか。おみくじレベルになりますね。株価予測する人も大変だなと思います。

参加者 | バリューを信じるためには、やっぱり数字が信じられないといけないわけですよ。だから、虚偽の報告をするような会社は潰れなくてはいいと思います。でも、それを許しているでしょ。日本の取引所とか役所は。それは本当によくない。信じるためには信じられるものを出してくれないと困る。

岡本 | そういう意味では、唯一信じられるのは配当です。これは現実にお金をだして払ってくれているから。企業の本音とか、企業経営者の態度の最終的な行動が、配当をいくら払うか。今の株価は、今の配当からずっと将来の配当までの現在価値の合計です。仮に、配当金を全く払わないことが確定している企業の株価は、値段がつかないでしょう。どんなに価値があっても、解散しないかぎり。投資家と企業をつないでいるのは配当金の流れです。配当はそういう意味ではすごく重要だと思います。バリューが現われても、報告書が嘘であっても、もらう配当金は本当ですから。本当は儲かっているのに払わないというところもね。あとは配当金で払った残りの内部留保の使い方です。今の平均的な ROE よりも高い分野に投資をしていかないと、ROE は向上していきません。当然のことですが、銀行預金に入れていたら絶対下がっていきます。資金を貯めているだけでなく、どう使っていくのか、そういう意味では日本に投資のチャンスがなければ海外で使う、もしくは全然違う分野を新しくスタートするとか。もう少し考えていかないと。経営陣にさえ問題がありますからね。

気象も投資も不確実性という問題が常に内在していますが、株式の場合はそこに人間の心理、欲望や恐怖が絡んでくるので余計難しいですね。今日もありがとうございました。



I-OWA マンスリー・セミナー講演より ウォール街の歴史(その1)

講演: 岡本 和久
レポーター: 赤堀 薫里

3回に分けてウォール街の歴史を話しますが、今日はその第1回目です。現在の資本市場の中心はやはり何と言っても米国です。証券制度や投資手法も米国が中心に進んできています。英国やオランダよりは少し歴史が短いですが、米国市場は長い歴史を持ちデータも豊富である、ということでウォール街の歴史についてお話をするのです。

証券取引所の歴史ですが、ある一箇所の決められた場所で「取引」をするという意味では、古代のギリシャやローマの時代からありました。本格的な取引所は1531年にアントワープに開設された取引所だと言われています。東インド会社はまだできていませんが、ちょうどこの頃、大航海時代が始まります。ロンドンに取引所ができたのが1566年。1730年、吉宗の時代に日本の堂島で米会所が始まりました。堂島の米会所は世界の中でも、きちんと制度が整った最初の先物取引所であると言われています。東京株式取引所は1878年に出来ました。

ニューヨーク取引所は1791年。諸説ありますが、オランダ植民地行政官スティヴェサントが、壁を作ったのでウォール街と呼ばれるようになりました。ニューヨークにいた貿易商人ウィリアム・デューアーは、著名な投機家で、大陸会議のメンバーでもありました。貿易でも盛んに投機をしたけれど、結局、失敗して破綻。債務者刑務所に入ったという事件が起こります。そこで、1792年、もっときちんとした制度に基づく取引所が必要だということで、すずかけ(ボタンウッド)協定が結ばれました。

1812年に対英戦争が始まります。戦争が始まり、英国からの資金流入が途絶えると、いかにアメリカ新大陸が、英国の資金に支配されているのかが明確になってきます。そこで、米国政府は戦費の調達として戦争債、債券を発行しました。その債券の発行の仕方は、お金持ちが一括して国から購入して、マージンを乗せて一般庶民に売ります。これでだんだん証券引受けという形態が出来上がってきました。

当時、連邦派は、各州の独立派ともめていました。各州に銀行があり、それぞれが通貨を発行していました。しかし、まとまって一つの組織がないといけないということで、1791年に初めて第一合衆国銀行が設立されます。免許が20年与えられました。しかし独立派の反対が強く、20年後の



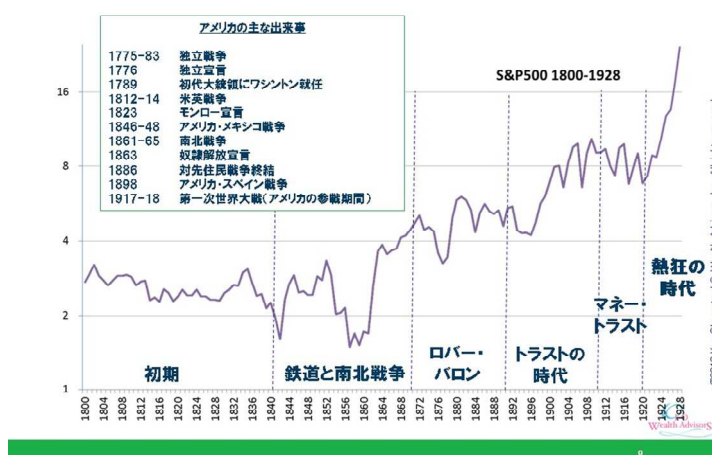
長期投資仲間通信「インベストラ이프」

免許更新は認められませんでした。5年後、1816年第二合衆国銀行がもう一度できますが、やはり20年後、更新してもらえなかった。州ごとの独立性が今でも強く、とても重視されています。憲法は合衆国(連邦)がすることをチェックするためにある、と明確にあります。

1817年にニューヨーク証券取引所が設立されます。当初はバッテリー・パーク近くのトンティン・コーヒー・ハウスのボードルームで取引が行われていましたが、その後1840年にウォール街に移転しました。一方、ニューヨーク証券取引所の外で取引をしていた人たちがだんだん大きくなることでアメリカン取引所になりました。もっとも、当時の株式取引は極めて投機的で、売買の中心はデマやうわさに基づく仕手戦でした。

カリフォルニアで発見された金につられてフォーティーナイナーたちが西部に行き、東西の交通が盛んになってきました。交通網として運河から鉄道が中心となります。この頃から新技術ができます。運河、ターンパイク、鉄道等、交通網も良くなりました。通信情報化も進みます。そういう中で新しい証券市場がどんどん増えてきます。ロスチャイルド、クーン・ローブ、ゴールドマン・サックス、このような人たちが証券業を始め、資金調達を新技術と合体してやっています。

S&P500指数 1800年～1928年



この辺が日本の明治時代と違うところです。明治時代は堂島の米会所。米取引はヘッジと投機が中心で、資金調達の意味は少なかったのです。要するにトレードです。それが日本の証券取引所の中でずっと続いてきた。渋沢栄一は合本主義と名付けて、資本を集めて企業を作るという考えもありました。しかし、株式の値段が取引の動機になっているというのは、いまだに続いているような気がします。アメリカの場合、新技術が出るとそれを企業化して、投資をした人は大儲けをしようというのがあるわけです。大きな違いは資金を起業家に提供してその成功の分け前を将来もらうということ、つまり資金調達がもとになっていた。

ゴールドラッシュが起こりましたが、人口はどんどん西へ移っていく。西部に銀行がどんどん出てくる。金が採れるので、資金量、通貨がどんどん増えていきます。通貨インフレが起きます。バブルが起きますが、崩壊してそれが東海岸の経済の方に大きなダメージを与えた。これを、西からのブリザードと言われています。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

講演では、はじめにアメリカの歴史の解説、ロスチャイルド家とアメリカ財閥の説明、モルガン家の興隆、トラスト時代、発明家と資金調達、マネートラスト、咆哮の 20 年代について興味深い解説をいただきました。



知って得する、ちょっと差がつく トリビア・コーナー

トリビア研究家 末崎 孝幸

末崎 孝幸氏

1945 年生まれ。1968 年一橋大学商学部卒業、同年日興証券入社。調査部門、資産運用部門などを経て、日興アセットマネジメント執行役員（調査本部長）を務める。2004 年に退職。Facebook 上での氏のトリビア投稿は好評を博している。



県名と県庁所在地名（の違い）

県名と県庁所在地名が同じ県と、同じでない県があるのに疑問を持ったことはないだろうか。以前、調べてみたことがあるが、これは明治新政府の「（一種の）嫌がらせ」政策によるものだった。

1871 年（明治 4 年）7 月、明治維新の最大の改革ともいべき廃藩置県により、藩は県となり、3 府（東京、京都、大阪）302 県になった。同年 11 月には、302 県が 72 県に統合され、1888 年には現在の 43 県になった。

県名と県庁所在地名が同じ県は、戊辰戦争のとき新政府側に味方した藩、同じでない県は、新政府に敵対した藩だ。1871 年 11 月の大統合の際、密かに新政府に敵対した県の県名変更が行なわれた。たとえば大藩といえども、その名前は一方的に消され、元の名より格下の郡名が、県名にされた。例えば、仙台藩は仙台県ではなく宮城県、水戸藩は茨城県、長岡藩は新潟県、高松藩は香川県などになったのである。つまり、県名が県庁所在地より格下の郡名だと幕府側、県名と県庁所在地が同じだと新政府側ということになる。

ただし例外もある。佐倉藩は幕府側だったにもかかわらず県名と県庁所在地が同じ「千葉」だ。しかし、「佐倉」という名称は消え、「千葉」はそれより格下の郡名なので、明治政府の「嫌がらせ」は成功している。同じようなことは弘前藩にも言える。県名と県庁所在地は同じだが、弘前より格下の郡名「青森」である。

こうした「嫌がらせ」を考案したのは、当時府県監督責任者の井上馨（長州藩）。そして、この「嫌がらせ」政策に上司である大久保利通（薩摩藩）が同意したのである。

（注）司馬遼太郎も「街道を行く(3)」で次のように書いている。



長期投資仲間通信「インベストラيف」

・明治政府がこんにちの都道府県をつくるとき、どの土地が官軍に属し、どの土地が佐幕もしくは日和見であったかということの後世にわかるように烙印を押した。その藩都(県庁所在地)の名称がそのまま県名になっている県が、官軍側である。

五重塔は1階建て？

世界最古の木造建築として知られる法隆寺の五重塔(創建は607年)。外観は5階建てに見えるが、屋根を5つ積み重ねた「1階建て」の平屋の塔である。一般の木造建築にある大黒柱はなく、「心柱」と呼ばれる塔の中心を貫く柱があり、一番上の屋根に接しているだけだ。1階とみられる部分には床がある造りになっているが、2重目より上は単なる屋根がついた複雑な木組みの構造物にすぎない。

なお、五重塔は仏舎利(釈迦の遺骨)を祀るために造られた仏塔の1形式であり、楼閣形状の五重の屋根を持つものをいう。国宝に指定されている木造の五重塔は奈良興福寺、京都醍醐寺など全国に11あるが、群を抜いて長い歴史を持っているのが法隆寺の五重塔である。

(追記)法隆寺の五重塔にはもう一つ秘密がある。それは写真に見られるように屋根が6層になっていること。実は一番下の屋根は裳階(もこし)といい、奈良時代に付け足されたもの。裳階は建物を風雨から守るとともに、外観を美しく見せる効果もある。



・写真は法隆寺の五重塔(Wikipediaより)

表彰状にはなぜ句読点がないのか

表彰状や卒業証書には句読点を使わないのがルールである。現在、文章には句読点を使うのが一般的であるが、賞状等に句読点を使わないのは相手に敬意を表する意味がある。

本来、日本には句読点を使う文化はなかったのだが、明治20年代頃から「どんな人にも読みやすいように」という目的で使われるようになったのだ。もともと一定の教養のある人であれば句読点がなくとも理解できるという考え方であり、読みやすいように句読点をつけるという気遣いは、逆に相手に失礼になってしまうという意を含んでいる。表彰状等には相手に敬意を払うためにも句読点を使わないのが正しいといえる。

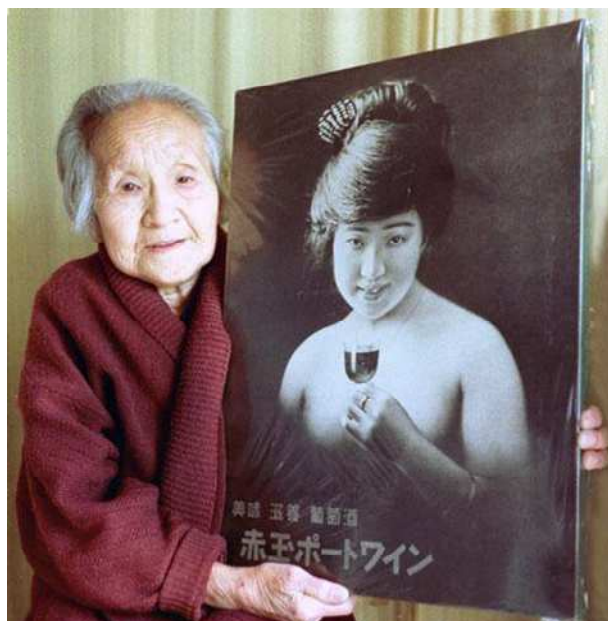
年賀状にも句読点をつけないのがマナーとなっている。『明けましておめでとうございます』というように句読点は使わないのが一般的である。



赤玉ポートワイン伝説のポスター(とご本人)

1922 年(大正 11 年)、当時の寿屋(現サントリー)が「日本人の舌に合うワインを」と今の会社の原点となるワインを発売。広告界の鬼才といわれた片岡敏郎氏が赤玉ポートワインを売り込むために、歌劇女優だった松島栄美子さん(当時 30 歳で既婚)をモデルとして起用、日本初のヌードポスターとなった。その結果、寿屋と赤玉ポートワインの名前は全国に知れ渡り、ドイツで開かれた世界ポスター品評会で最優秀の荣誉に輝いた。

写真は 1983 年(昭和 58 年)3 月に撮影されたもの。松島さんはこの時 90 歳、翌月亡くなっている。



カーディガン(の由来)

クリミア戦争(1853～1856 年)のバラクラヴァの戦いにおいて、第 7 代カーディガン伯爵率いるイギリスの軽騎兵軍 673 名がロシア軍陣地に正面から突撃し、負傷者 278 名という大損害を被った。この戦いは「軽騎兵旅団の突撃」と呼ばれ、無謀ではあるが勇敢でもあったと評価され、後年多くの絵画や音楽、文学の創作の題材となっている。

この戦いで負傷した兵士のために、素早く着られるようにカーディガン伯爵が考案したのが「カーディガン」である。保温効果があるうえ、前開きのため軍服の上から重ね着することもできたという。

市井に生きる本格長期投資家 株式投資で得た資金、総額1億円で社会貢献

いの はな ふく まつ
猪鼻福松さん(89歳)

株式投資の利益1億円で社会貢献

9月9日、社団法人日本フィランソロピー協会による「第8回 まちかどのフィランソロピスト賞」の贈呈式が東京都千代田区の学士会館で行われた。

同賞は社会に役立つ寄付を行った方を顕彰するもので、今回の受賞者は猪鼻福松さん(89歳)。

猪鼻さんは東京都北区在住の元警察官。若い頃からコツコツと資金を蓄えて株式投資を行い、利益を赤十字社や生まれ故郷の館林市、また生家の近所の人たちが利用する集会所の整備資金などに提供してきた。その総額は実に1億円。

残念なことに、猪鼻さんご自身は転倒による骨折のため、当日の受賞式には出席できなかったが、あらかじめ撮影されたビデオメッセージで登場。病床にもかかわらずかくしゃくとした話しぶりで、ご自分の半生や株式投資の体験談を披露し、何度も会場を沸かせた。

株式投資による資産形成と、その資産を用いた社会貢献は、まさにこれからの長期投資家のモデルといえる生き方。猪鼻さんはどのようにしてフィナンシャル・インデペンデンス(経済的自立)を遂げたのだろうか。

猪鼻さんの半生と株式投資、そして社会貢献活動の一端をご紹介します。

株で末路衰れにならないためには……

東京都北区の病院に入院中の猪鼻さんを訪ねたのは、9月の下旬。病室に通じる階でエレベーターを降りたところ、猪鼻さんは廊下のかたわらで看護婦さんたちに囲まれて談笑中だった。ケガなどものともしない自由闊達な話しぶりで、看護婦さんの間でも人気者の様子。好々爺然とした物腰ながら、物事を鋭く見抜く炯眼を備えた人物という印象である。

「今回はご受賞、おめでとうございます」と挨拶すると、元気良くこんなお返事が返ってきた。

猪鼻さん「いやー、何ともムチャクチャな話でしょう(笑)。私みたいに小学校高等科しか出ていない人間が、株で儲けてボランティアをしていたら、それが(フィランソロピー協会に)見つかって表彰されちゃった。

こんなにうれしいことはない。私はあと少しで90歳だけど、どんどん力が湧いてくる。100歳までいけると思いますよ」

編集部「まだまだこれからも、どうか元気で頑張ってください。

ところで猪鼻さんは、株でつくったお金で社会貢献を続けられてきたということですね」

猪鼻さん「株で儲けようなんて思っちゃいけない。

自分の選んだ会社がどう育っていくのか、それを楽しみにする気持ちが大切だよ」

編集部「では、実際どんな風に株の運用をされてきたのでしょうか？」

猪鼻さん「おもしろいもので、買った株が2年で倍ということもあった。それから、1ヵ月で7倍になったこともあった。

その銘柄は、毛糸などの編み機ของบริษัทなんだね。昔はどこの家でも、奥さんが毛糸でセーターやマフラーとかを編んでいたでしょう。

あるとき、その家庭用の編み機のトップメーカーが潰れちゃった。するとこれは危ないというんで、みんながその業界の会社の株を売ったんだね。でも私は違うと思ったんだ。

やっぱり、毛糸の編み物は生活していくのに必需品でしょう。決してなくなることはない。だから、残った業界2番手の株を安値で買ったんだね。1番手が潰れたんだから、今度は2番手が伸びるはずだから。そうしたらやっぱり、その会社の株価が1ヵ月で7倍も上がっちゃったんだ。

こういう面白い話もあるけれど、でも、とても株は人には勧められないね。

相場師とか、仕手筋とか、(半世紀以上)いろんな

人を見てきんだが、その時にどんなに派手にやっても、みんなしまいには失敗して、破産とか自殺をしてしまった。欲をかい^もて株に手を出す奴の末路は哀れよ」

編集部「では、投資で末路が哀れにならないためには、どうすれば良いのでしょうか？」

猪鼻さん「それには（自分だけ儲けよう^{もう}としないで）ボランティアをすることだよ（笑）」

病弱な少年期、そして戦傷を負いつつも生きのびる

猪鼻さんは1915年（大正4年）、群馬県館林市の生まれ。

父親は農業を営んでいたが、猪鼻さんが4歳の時に肺結核で他界してしまう。次兄と弟も同じく肺結核で亡くなり身内の早逝が相つぐが、猪鼻さん自身も生まれつき腎臓が悪く、少年時代には脳膜炎と脚気^{かっけ}も患ってしまう。医師からは「この子は長くは生きられない」と宣告されていたという。

そんな病弱な猪鼻さんをなんとか生かしたいと、女手一つで身を粉にして働いていた母親が、毎夜、近くの稲荷神社にお参りに出かけ手を合わせていた情景を、猪鼻さんははっきりと記憶に刻んでいる。

小学校の高等科を卒業後は、虚弱体質で中学への進学がかなわないほどだったが、長兄の農業を手伝ううちに徐々に体力が回復。商人になることを志し、隣村の雑貨商に奉公に出る。

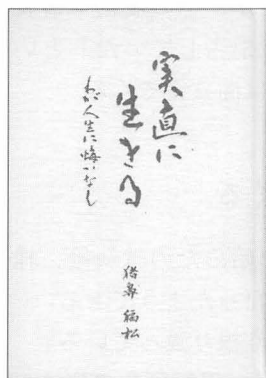
猪鼻さんは大麦や野菜の産地である館林で、地元の農家に肥料や発動機用のオイルなどを売る商売に携わり、寝食を忘れて働く。店主からも認められ、将来は独立して穀物商店を開く夢を持っていたが、折りしも日本は日中戦争に突入。

日々経済統制が強まる中、自由に商品を売買することもままなくなってしまう。そこで商人となることを断念し、一転して当時軍隊による召集で不足していた警官として奉職しようと思い立ったという。

勉強は小学校高等科を卒業以来、まったくの独学。にもかかわらず、警官の採用試験を一度でパスし、東京・荒川区の下町、南千住警察署に勤務する。

住民からは「笑顔のお巡りさん」「坊ちゃんお巡りさん」と親しまれていたが昭和15年、日中戦争が泥沼化する中、猪鼻さんも衛生兵として陸軍に召集さ

株式投資で得た利益1億円を、社会貢献に寄付してきた猪鼻福松さん。「資金はまだまだたっぷり用意してある。ボランティアはこれからもずっと続くよ」と語る。



『実直に生きる わが人生に悔いなし』（熊谷印刷）

本書は猪鼻さんの自伝。決して何もかもが恵まれていたとはいえない境遇の中で、大切に機会を生かし、文字通り実直に生きてきた猪鼻さんの人生が綴られている。株式投資に関する記述はほとんどないが、その生き様に触れることは、長期投資の上で貴重なヒントとなるのではないだろうか。

れ、中国各地を転戦する。さらに南方戦線へ送られるが、移送の途中で乗っていた輸送船が撃沈され、九死に一生を得るものの、腰椎骨折の重傷を負ってしまう。

制海権と制空権を連合軍が掌握^{しょうあく}し、日本籍の船は十中八九撃沈されるという状況下、傷痕軍人となった猪鼻さんはようやく赤十字の病院船で内地に帰還することができた。それ以来、「赤十字は生命を助け^{しょうい}てくれた恩人」と感謝し、この体験がその後の猪鼻さんの社会貢献活動につながっていく。

定年まで一巡査として 一署に勤務の異色警察官

復員後は再び巡査として南千住署に勤務。際立ったものだけでも、GHQの占領下、強盗を犯した米兵をとらえMP（米軍の憲兵）に引き渡したり、東京国体では昭和天皇の巡行中、騒乱^{くわだ}を企てた暴漢を事前に察知して取り押さえるなどの業績を上げる。

猪鼻さんの勤務ぶりは署内でもトップクラスで、表彰を受けるのもたびたびだったが、異色の警官でもあったようである。

肩書きは定年間際まで巡査長。なおかつ定年まで

34年余り、南千住署一署に勤務を続けたことも、異例中の異例。転勤や異動を繰り返し、ポストの階段を上がることを良しとする日本社会一般の風潮からみれば、極めて特異なことである。

しかし、猪鼻さん自身は長年なじみのあるコミュニティに身を置き、組織よりも一人の巡査として自分自身が納得のできる働きをすることに、一番の生きがいをおぼえていたようだ。

南千住署の歴代の署長も、猪鼻さんに度々転勤や昇進を受け入れることを求めたが、その度に「署長を脅かしたり、すかしたりして拒否していた」という笑い話のような話も周囲からは聞こえてくる。

一介のサラリーマンが 長期投資で潤沢な資産をつくる

さて、猪鼻さんが株式投資を始めたのは戦後、株式市場が再開されて間もない頃だったようである。

当時のことを、猪鼻さんはこう振り返っている。「当時、お金を株式にしておくと、銀行預金の利子の倍の配当金がもらえたから、それだけでとても良い運用になりました。ですから、警察の寮費に給料の3分の1を納める以外はほとんどお金を使わなかったし、体が弱かったから、いざという時に備えてコッソツと株を買っていたんです」

本誌の32～33ページで澤上篤人氏も書いているとおり、過去50年間の日本株式の平均投資収益率は実に14.5%。配当金と株価の値上がり益が相まり、一介のサラリーマンだった猪鼻さんが、地道な長期投資を通じ一代でかなりの資産を築くことができたのも、十分に納得できる。

また、この潤沢な金融資産が、昇進に目もくれず、自分自身が納得できる仕事ぶりに打ち込む上で、大きな支えになってくれたことはいまでもないことだろう。

加えて定年後、猪鼻さんは「私は民間会社に再就職しているし、共済年金ももらっている。生活に困っているわけではない」と傷痍軍人年金を返上している。

猪鼻さんの生き方は、年金に依存しない自立した人生の、まさに先行事例ともいえる。

「ボランティアはこれからも まだまだずっと続きますよ」

最後になってしまったが、ここで猪鼻さんの社会

□昭和30年、赤羽公民館（群馬県館林市赤生田^{あこうだ}本町）に寄付。

□平成8年～11年、大林稲荷神社、長良神社、集会所、子どもたちの遊び場を整備（7000万円）。

□平成8年から毎年、館林市民を新宿コマ劇場に招待。

□平成10年、日本赤十字社に寄付（1000万円）

□平成11年、館林市赤生田^{あこうだ}本町老人会、館林市赤羽体育祭に寄付。

□平成12年、館林市赤生田^{あこうだ}本町老人会、子供会、館林市赤羽体育祭に寄付。

□平成13年より館林市赤羽体育祭、館林市立第5小学校、赤羽公民館に、拡声器・テント・拡大複写機・放送機器・ソファなどを寄付。

□平成16年、館林市役所に寄付（1000万円）。

（以上、寄付総額は約1億円）

貢献活動の内容をご紹介します。主な事歴は上の囲みの通り。

ご覧のように、おもな寄付先は故郷の館林市と、生家のある同市赤生田^{あこうだ}地区、そして日本赤十字社。

大林稲荷神社への寄付だが、こちらは戦地から生還し、警察官としての職務をまっとうすることができたのは、母親がお参りしていたお稲荷さんの御利益と信じているためである。そこで同神社の新築に際し、費用の全額を負担し、さらに生まれ故郷の住民が豊かに暮らしてほしいという願いから、隣接する集会所と子どもの遊び場も整備している。その総額は7000万円。

赤十字社への寄付は、先述のとおり戦時中、故国へ自分を連れ帰ってくれた病院船を命の恩人と思っているため。感謝と平和への願いを込め、若い頃から毎年1万円づつの寄付を続けていたが、不況により赤十字社に寄付金が集まらず、資金難だということを知り、平成10年に1000万円を寄付した。

また館林市にも平成16年に、「自由にお使い下さい」と1000万円をポンと寄付している。

ほかにも毎年、生家のある赤生田^{あこうだ}地区の運動会に運営費を寄付。

さらに、館林市と近隣の町に住む耳の不自由な方を招待した、手話を交えたシャンソンのコンサートにも寄付をしている。

もう一つ、猪鼻さんの社会貢献活動で忘れてはならないのは、それを支える支援者の存在。館林での

寄付活動に際しては、地元在住の遠戚で友人の長浜^{ながはま}隆一^{りゅういち}さん（76歳）が寄付先の検討や、行事の企画や運営、実施にあたっている。長浜さんは赤生田^{あこうだ}地区の集会所の建設の際も、現地の実務担当者として尽力している。総額7000万円の事業だけに、経理の処理から施工業者の手配まで並大抵の努力ではなかったはずだが、もちろんこれもまったく無報酬のボランティア。

「ボランティアはこれからも、ずっと続きますよ。私が逝^いってもまだ続きます（笑）。

資金もたっぷり用意してある。

息子夫婦と長浜さんにも、どのように続けていく



平成8年に猪鼻さんの寄付で整備された、大林稻荷神社と集会所、子どもの遊び場

かよく言っているからね」

猪鼻さんにとって、社会貢献と株式投資は共に世代を超えて存続する、超長期の事業なのである。

（本誌・伊藤周太）

今月の一冊



『敗者のゲーム（改訂版）』

チャールズ・エリス著 鹿毛雄二訳／日本経済新聞社

○株式投資は「敗者のゲーム」

本書は株式投資を行うすべての人が読むべき、古典的な名著。エリスは現在の株式市場では機関投資家の割合が増え、株式投資は相手のミスによる自滅で勝負がつく「敗者のゲーム」になっているという。

冒頭でエリス自身が「この二百数十頁を読めば読者は投資家として成功する方法を学ぶことができる」と言っているように、この本には株式投資のエッセンスが網羅されている。それだけに論点も多く、また目から鱗が落ちる箇所が非常に多いのであるが、その中で筆者が最も感動した2点を紹介したい。

○なぜ証券会社の営業マンの言う通りにするとうまくいかない？

筆者も株式投資を始めた約20年前に、証券マンに聞けば値上がり確実な株がわかり、簡単に儲けられると

思っていた。しかし、結果は惨憺たるものだった。当時はその理由について明確にはわからなかったが、この点についてエリスは「証券会社の担当の人に気をつけなさい。多くの場合、素晴らしい人たちである。しかし、彼らの仕事はあなたを儲けさせることではない。あなたから儲けることである」と言っている。言われてみれば当然なものの、まさにコロンブスの卵で目から鱗の至言ではあるまいか。

だからこそ、証券マンは短期で売り買いさせるため急騰銘柄を推奨することが多い。言われる通りに買ってしまおうと高値つかみをしてしまい、その後損切りで売らざるをえなくなったり、売りに売れず、塩漬けにして抱え込んでしまうケースが多いのではなかろうか。

○タイミング投資はなぜ成功しない？

1960年1月にアメリカのS&P500（アメリカの代表的な株価指数。上場銘柄全体の値動きを反映するように設定されている）に投資された1ドルは、複利の効果もあり1990年6月には19.45ドルになったという。

しかし仮にこの30年間のうち、株式市況がベストだった10ヵ月間を逃しただけで、結果は6.58ドルになってしまう。この市況が絶好調だった10ヵ月間とは、全体のわずか3%に過ぎない期間なのだから、タイミングをとらえるのは至難の業。

やはりエリスも言っているように、常に「長期投資家」を標榜し、市場の最悪期にもフルインベストでのぞむことが、市場の活況期にも参加できる現実的な方法ではなかろうか（エリスはこれを、「ひどく単純なアドバイス」と言っている）。

短期的な市場の予測は誰にもできないので、タイミングを見た売買は「市場の最も輝く時期」を逃す可能性があるのだ。

（相山豊 ファイナンシャルプランナー）

<モデルポートフォリオ:2019年11月末の運用状況>

単位: %

		トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率			
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)	10年 (年率)	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月 ~ 239万円
4資産型	積極型	2.52	7.41	5.46	9.91	15.23	8.40	18.65	67.68	100.66
	成長型	1.56	6.19	3.80	7.53	10.61	5.95	13.24	46.84	76.52
	安定型	0.60	4.70	2.00	5.01	6.49	3.47	7.71	28.20	52.75
2資産型	積極型	3.08	9.28	5.04	10.36	16.63	8.37	21.13	71.54	118.93
	成長型	1.97	7.61	3.33	7.98	12.27	6.28	14.85	50.59	90.00
	安定型	0.87	5.69	1.50	5.48	8.48	4.13	8.60	31.81	62.03

* 投資にかかるコストは控除していない。積み立ては、税引き前分配金再投資。ポートフォリオは毎月リバランスをしたものとする。
積み立ては計算月数分を運用したものとする。例えば1年の場合は2018年11月末に1万円投資資金を積み立て始め、
2019年10月末の投資資金までとする(2019年11月末積み立て分は運用期間がないため含めていない)。

出所: イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがMorningstar Directにより作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは
「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンまで。

ポートフォリオの資産配分比率(外貨建て資産は円換算ベース)

		国内株式: TOPIX	外国株式: MSCI KOKUSAI	国内債券: NOMURA- BPI (総合)	外国債券: FTSE WGBI (除く日本)
4資産型	積極型	40%	40%	10%	10%
	成長型	25%	25%	25%	25%
	安定型	10%	10%	40%	40%
2資産型		世界株式: MSCI ACWI (含む日本)		世界債券: FTSE WGBI (含む日本)	
	積極型	80%		20%	
	成長型	50%		50%	
	安定型	20%		80%	

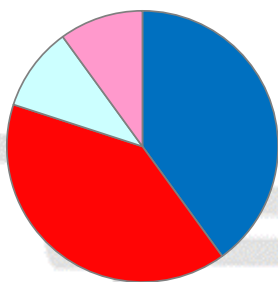
ポートフォリオは「インベストラيف」が参考のために考案した資産配分に基づき、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出しています。
特定の資産配分による投資の推奨を行うものではありません。

「長期投資仲間」通信『インベストラيف』のその他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

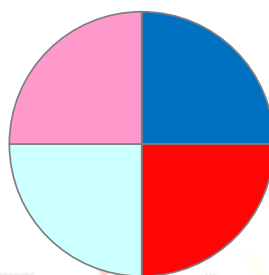
4資産型

- 国内株式:
TOPIX
- 外国株式:
MSCI KOKUSAI
- 国内債券:
NOMURA-BPI
(総合)
- 外国債券:
FTSE WGBI
(除く日本)

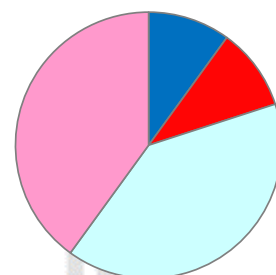
積極型



成長型



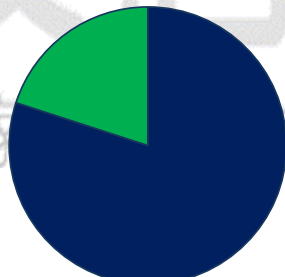
安定型



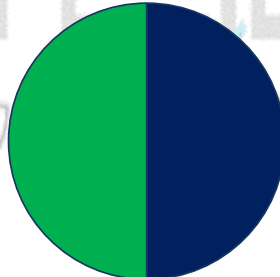
2資産型

- 世界株式:
MSCI ACWI
(含む日本)
- 世界債券:
FTSE WGBI
(含む日本)

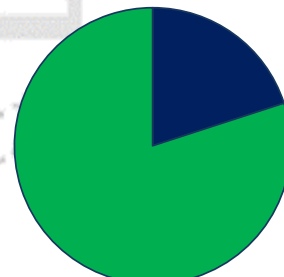
積極型



成長型



安定型



当資料は「インベストライフ」のために、イボットソン・アソシエイツ・ジャパンがデータを算出、作成しています。特定の投資信託による投資の推奨を行うものではありません。
※ファンド名をクリックすると「投信まとなび」でそのファンドを見ることができます。

「長期投資仲間」通信『インベストライフ』の
その他の記事はこちらからご覧ください。
<http://www.investlife.jp/>

<直販ファンド:2019年11月末の運用状況>

運用会社名	ファンド名	トータルリターン				リスク	1万円ずつ積み立てた場合の 投資額に対する騰落率				1万円ずつ積み立てた場合の 月末資産額				2019年11月末		2019年 8月末	2019年 11月中
		1ヵ月	1年	5年 (年率)	10年 (年率)		1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月～ 239万円	1年 12万円	5年 60万円	10年 120万円	2000年1月～ 239万円	純資産 (億円)	基準価額 (円)	(前回掲載時) 基準価額 (円)	推計資金 純流入額 (億円)
さわかみ投信	さわかみファンド	1.52	3.51	5.22	8.66	19.14	8.61	14.43	58.55	145.22	13.03	68.66	190.26	446.31	3,126.5	25,985	22,551	-21.12
セゾン投信	セゾン・バンガード・ グローバルバランスファンド	1.88	7.13	2.72	7.07	12.07	6.26	12.88	45.47	-	12.75	67.73	174.57	-	1,965.2	15,423	14,484	6.16
レオス・ キャピタルワークス	ひふみ投信	3.04	4.38	12.20	15.41	17.51	9.09	27.25	130.15	-	13.09	76.35	276.18	-	1,342.7	49,178	43,651	-24.91
セゾン投信	セゾン 資産形成の達人ファンド	3.84	10.31	7.59	13.58	18.83	9.59	26.07	100.83	-	13.15	75.64	240.99	-	883.8	22,781	20,406	2.98
鎌倉投信	結い 2101	2.27	0.79	4.68	-	-	4.73	11.36	-	-	12.57	66.82	-	-	411.4	19,194	17,853	2.10
コモンズ投信	コモンズ30ファンド	-0.07	3.55	6.56	9.28	17.27	8.78	17.46	67.25	-	13.05	70.47	200.70	-	180.3	28,994	25,420	-1.99
ありがとう投信	ありがとうファンド	2.87	8.31	4.63	9.19	16.20	8.20	13.97	57.28	-	12.98	68.38	188.74	-	132.3	19,131	17,347	-0.74
クローバー・アセット	コドモ ファンド	3.43	6.35	8.43	-	-	9.22	21.97	-	-	13.11	73.18	-	-	78.3	18,495	16,587	-0.12
ユニオン投信	ユニオンファンド	1.79	6.11	2.40	7.18	16.87	6.43	9.30	40.36	-	12.77	65.58	168.43	-	71.5	24,461	22,141	0.31
コモンズ投信	ザ・2020ビジョン	9.54	14.92	7.65	-	-	17.43	26.31	-	-	14.09	75.79	-	-	42.6	17,354	14,632	-0.46
クローバー・アセット	浪花おふくろファンド	2.34	4.74	7.00	9.91	15.55	6.75	17.68	68.01	-	12.81	70.61	201.61	-	13.0	21,285	19,563	-0.04
クローバー・アセット	らくちんファンド	2.43	6.31	5.72	8.46	14.08	7.23	15.97	57.01	-	12.87	69.58	188.41	-	10.1	17,770	16,425	0.01
クローバー・アセット	かいたくファンド	2.53	7.92	6.37	9.91	13.47	7.40	20.52	70.56	-	12.89	72.31	204.67	-	7.9	21,809	20,213	-0.02

*積み立ては税引き前分配金再投資、計算月数分を運用したものとします。例えば1年の場合には2018年11月末に1万円で積み立てを開始し、2019年10月末投資分までの11月末における運用成果とする(11月の積み立て額は入れない)。
出所: MorningstarDirectのデータを用いてイボットソン・アソシエイツ・ジャパンが作成。MorningstarDirectについてのお問い合わせは「投信まとなび」のお問い合わせメール(<https://www.matonavi.jp/inquiry>)にてお気軽にご送信ください。